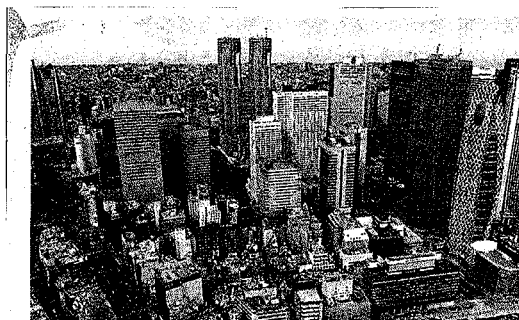




アジア航測

スピーディーに3次元化 災害、維持管理で活用

アジア航測は、斜め写真からスピーディーに3次元(3D)モデルを作成するサービスを開始した。地形の判読や現況把握が容易にできるため、土砂災害など緊急時の被害状況確認や二次災害防止の対応策などが迅速に検討できる。

従来の航空レーザ計測は、1平方キロ以下の土砂災害を3Dモデルにするには3日程度かかっていたが、今回は自動で作成できるため撮影した翌日に提供可能となる。手持ちカメラによる斜め写真からも作成できることから、航空レーザ計測より撮影機会が多くなるメリットもある。料金は撮影面積が約1平方キロの場合、航空レーザの約250万円に対し約100万円とコストダウンしている。

防災分野だけでなく景観評価、危機管理、道路や橋梁などインフラの維持管理にも活用していく方針だ。

19日から東京都江東区の東京ビッグサイトで開催される「3D&バーチャルリアリティ展」で紹介する。

【建設ICT】

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. 日経 | 2. 朝日 | 3. 毎日 |
| 4. 読売 | 5. 岐阜 | 6. 中日 |
| 7. 産経 | 8. 静岡 | 9. 伊勢 |
| 10. 中部経済 | 11. 建通 | 12. 日刊工業 |
| ⑬建設通信 | 14. 信濃毎日 | 15. 日本海事 |
| 16. 建設工業 | | |

平成25年6月18日(朝)・夕 P3-2

建設通信新聞